

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4490500404 | | |
| 法人名 | 栄寿会 合同会社 | | |
| 事業所名 | グループホームぽかぽか(ゆずユニット) | | |
| 所在地 | 佐伯市弥生大字江良1451-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年4月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年6月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年5月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームぽかぽかでは、利用者本位とチームワークを軸に、「自分の事が自分で出来て」「社会と繋がって」「互いに助け合い」その人がその人らしく生きられるように”を理念に掲げ支援しております。利用者様お一人お一人の個性を大切に、その方に応じた役割を持って頂く事、喜びや楽しみを日々の生活の中で感じて頂けるよう、職員一同ケアを行っています。ドライブや散歩等、外出支援にも力を入れており、利用者様に四季を感じて頂けるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の個性や特技が日々の生活や活動・居室づくりに活かされ、その人らしい生活の支援が行われている。
- ・職員の育成やキャリアアップ、資格取得支援が充実しており、就業や職員の質の向上に繋がっている。
- ・コロナ禍にあっても、自然に囲まれた環境の中で日常的に外気を楽しみ、スケジュールや時間制約に縛られない、その人らしい生活が繰り広げられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の朝礼時、会議の最後に理念を読み施設職員、管理者で共有をしている。また、新任職員研修時や職員の研修時に内容を理解していただいている。 | 令和2年の事業所開設時、「自分の事が自分でできる」「社会とつながる」「互いに助け合う」の3項目を、事業所理念として作成している。理念は、職員間で共有され、個別ケアやチームケアに活かされている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ゴミ拾いや神社の清掃、溝掃除に利用者と職員で参加し、地域との交流を深めている。回覧板回しや、地域の方と散歩に出かける事もある。 | 自治会に加入している。グループホーム開設前の有料老人ホーム運営時から、地域との繋がりが構築されており、地域からの情報提供や地域の人との交流が日常的に行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて認知症の事等を話し、地域の方に認知症の事を少しずつ理解して頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にてサービスの内容や、ヒヤリハット、事故報告書の説明を行い、参加者へのご意見を頂いている。話し合う時間を設け頂戴したご意見等施設内で職員と共有し、議事録にて報告を参加者へ報告している。 | 運営推進会議は、利用者の全家族に案内を出している。コロナ禍により、昨年末から書面での会議となっているが、各委員にアンケートを送付し意見や提案を議事録にまとめ、全委員に報告している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所担当者と電話連絡を良くし、相談事等は積極的に話し合っている。 | 佐伯市介護保険課担当者に、事業所運営や手続きなど相談し、運営に生かしている。地域包括支援センター職員とは事業所の利用者支援や情報の共有に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設け、身体拘束指針を職員、ご家族、地域の方、行政に提示し、身体拘束を行わないようにしている。 | 開放感のある環境づくりや自由な外出により、利用者のストレス軽減が図られ、身体拘束をしないケアに繋がっている。外出傾向の利用者の把握や散策同行について職員間で情報共有され、連携が図られている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止の研修を設け、管理者、職員に学ぶ機会を作っている。利用者の入浴時等体の状態観察を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の研修を設け、管理者、職員に学ぶ機会を作っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 項目毎に説明させていただき、不明な点がないか確認、理解、ご納得頂いた上で契約を結んでいる。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様やご家族に運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。また随時ご利用者様、ご家族の意見や要望を職員へ朝礼や会議を通じて周知徹底を図っている。 | 毎月、利用者の近況や事業所の状況報告を兼ねた広報誌を作成し、家族に送付している。家族から出された意見や要望を把握し、実践につなげている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に(年2~3回)職員の個人面接を行い、意見や提案を話し合う機会を設けている。また、気づきノートを活用し、著名で意見を出せるようしており、職員会議では気づきノートの内容を取り扱うようにしている。 | 月2回職員会議が開かれ、職員の気づきや意見、利用者支援について話し合い、会議の充実についても検討されている。職員の働き方や学びの支援も充実しており、働きやすさ、質の向上に繋がっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員面談を行い、個人目標の設定をしている。また、研修費用や資格習得費用は事業所で負担し、職員のスキルアップや向上心を持ち職務につけるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新任職員は入社した日より研修を行う。職員研修は、外部の研修に参加したり、管理者や職員が施設内研修にも取り組む。職員一人一人の力量を把握し、チーム全体の力をレベルアップさせる事にも取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修に参加し、同業者と意見の交換をしたり、他施設の見学や訪問等をしたり、交流を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前にご家族様、ご本人様と必ず面会を行う。ご家族様、ご本人様に要望をお聞きして、施設に入所されても生活環境や生活習慣をなるべく大切に、ご自宅や、利用施設を見せて頂き、ご本人に合ったサービスが提供できるようにする。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家庭での過ごし方や、要望、困っている事、不安に思っている事を十分にお聞きし、これからの生活を安心して過ごして頂ける様に、ご家族様ご本人様と話し合い、信頼関係作りをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人様、ご家族様と必ず面会し、ご自宅や、利用施設を見学させて頂き、必要なサービスを見極めている。介護保険の他のサービスの説明や他の施設への見学をおすすめし、体験入所のお勧めも行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様ができる事は一緒に行い、役割を持って生活して頂く。様々な場面で教えて頂くことが多く、主に家事などを生活の場に取り込み活動している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃よりご家族様に生活の様子をお伝えしている。ご家族様に協力をお願いしたり、ご自宅へ一時帰宅したり、ご自宅で飼われていたペットを連れてきて頂いたり、ご家族との関係性を大切にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行きつけの理髪店に行ったり、ご自宅近所の方の所へ交流をしに出かける。スーパーや商店へ出かけ、馴染み方とお会いして頂く。また、電話やZOOM、LINE、等を利用し外出できなくても、ご家族やご友人と交流を楽しんで頂く。 | コロナ感染拡大前は、日常的に馴染みの人や場との交流が実践されていた。事業所利用開始からの気の合う利用者同士やユニット間での交流、利用者職員との馴染みの関係が築かれている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニットの席やフロアを移動して頂き、気の合う方等と一緒に過ごせるようにする。レクレーションの中で協力し合うレクレーション等を織り交ぜ、支え合えるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所されてもイベント等の時はご家族にご連絡し、招待したり、転居先の訪問等を行い、仲の良かった利用者様と交流する機会を設けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会議内で利用者様の状態や思いを職員に共有し、ご本人の希望に添ったケアプラン作成をしている。困難な方はご家族にこれまでの生活の状況を聞いたり、ご本人の表情をくみ取り自分らしくらしていただけるようにする。 | 計画作成担当者がアセスメントを取っている。家族や今まで係わってきたケアマネジャーからの情報とともに、利用者個々の個性や習慣など、「その人らしさ」や「思い」の把握が行われ、職員間で共有が図られている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時には必ずご本人、ご家族と面談、アセスメントを行い、情報は職員全体で把握する。これまでの生活をできる限り継続してできる様に努めている。個人ファイルを作り、職員と常に把握できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日朝礼を行い、夜勤者にも申し送りをし、日々利用者様の心身の状態の把握に努めている。施設での生活の中で役割を持って頂き、利用者様お一人お一人に、生きがいを感じて頂ける様に支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者も業務に入り、利用者様と日々を過ごす事でケアプランを作成している。ご本人様、ご家族様にもお話を伺いケアプランに反映している。会議で職員全体でも話し合いを行い、ご本人様が望む生活、その人が自分らしく過ごせる様に、計画を立てている。 | 利用者個々の「その人らしさ」や「好きな事」「出来る事」を大切に、心身の状況に合わせた介護計画の作成に努めている。モニタリングを2か月に1度行い、見直しを半年に1度行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | フェイスシートや日々の記録を個別にし、職員が見る事のできる様にしている。また、ご家族様より記録の観覧を要望された場合も観覧して頂く。月に2回全体会議を行い、日々の様子や実践、結果気づきや工夫をみんなで話し合う時間を設けている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療の連携はもちろん、お一人お一人の望む生活を送って頂く為、利用者様の望まれるところに、職員も一緒に行ったり等、可能な限り、利用者様に寄り添う様に取り組んでいる。他施設との交流も積極的に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議等で民生委員の方、区長の方に地域のお祭りや、イベントをお聞きし参加したり、地域のスーパー、美容院に日々の生活の中で出向き、地域の方と一緒に利用者様を支援している。ボランティアの方にもきて頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、ご家族様の希望する病院の受診をしています。かかりつけ医には日頃より利用者様の状況報告を行い、信頼関係を気づきながら、関係制を作っており、適切な治療が受けられるように支援している。 | 職員対応により、事業所利用開始前からのかかりつけ医による継続受診が行われている。受診後は、家族に受診報告が行われている。かかりつけ医との情報共有や相談助言、円滑な医療支援が図られている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 病院との医療連携を図り、定期的な看護師の訪問、利用者様の情報の共有、適切な受診や看護を行えるように整備中である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃より、地域の病院の医師、ソーシャルワーカー、看護師の方と利用者様の事で相談、連携、情報交換ができる様にしている。かかりつけ医との連携もとれている。その為、入退院がスムーズにできている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時の説明の際、重度化や終末期を迎えた時のご本人様、ご家族様の意向を伺い、確認している。延命治療を受ける、受けないしる、ご家族、かかりつけ医と密に連絡を取り、本人はもちろんご家族の心にも寄り添いながら話し合っていく。話し合った内容は職員にも伝え、医療面はかかりつけ医に相談し、最後までその人が自分らしく生きられる様に支援していく。 | 事業所利用開始時、重度化・終末期の意向把握が行われている。心身の状況変化や病状変化時には、医療や他の専門職の協力を得ながら、利用者や家族と思いを共有した支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応マニュアルを作り、施設内研修をする。外部研修にも参加させて頂いている。かかりつけの病院の電話番号を一覧にしているため、事故や、急変があった場合はすぐに連絡、相談できるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防設備点検業者とスプリンクラー等の点検、通報、避難訓練、消火訓練を業者、職員、利用者様と年に2回行っている。石油ストーブを準備している。 | 火災想定での、避難実働訓練を行い、水・食料・衛生品などの備蓄は、事業所内に準備している。職員に、地域の消防団員が在籍している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 居室は個室となっており、利用者様のプライバシーを守っている。職員は必ず、名前をさん付けで呼び、あだ名では呼ばない。必ず丁寧語を使用する事から研修を行っている。お一人おひとりの人格や人としての尊重をする事を方針としている。 | 利用者のその人らしさを大切に、目上の人という認識を持った言葉使いや声掛けに努めている。日常的に家事や共同作業終了後、「ありがとうございます」の感謝の言葉を伝えている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | おやつ飲み物は毎日、ドリンクメニューから本人様に選んで頂き提供している。また、入浴や起床の時間も施設では作らず、本人様の意思を尊重し少しでも自己決定ができる様にしている。その人が自分らしく生きて頂こうと支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床、食事、入浴、就寝の時間は決まっておらず、お一人おひとりに合わせ、またこちらからもお尋ねし、生活して頂いている。買い物や散歩等の希望があった場合は、日程表に組むなどし外に出る機会を持って頂ける様支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせて、衣替えは職員と一緒にいき、ご本人様の希望に合わせて、衣類を買いに出かけたり、ご自宅に衣類を取りに外出することもある。また、馴染みの美容院や床屋にカットやパーマをかけに出かけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の好みは普段の会話の中からお聞きしたり、ご家族様に伺っている。調理は基本利用者様と行き、野菜切りや味付けも職員と一緒にいき、利用者様好みの味を提供している。 | ユニット毎に毎食の献立を作成している。旬の食材利用や利用者のリクエストや行事食など、食事を楽しむ支援が行われている。食事の準備から片付けの工程で、利用者が活躍する場面が多くある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の記録に食事量や水分量を記入し、職員が把握できるようにしている。食事量が少ない方には、栄養補助食品やその方が好きな物を食べて頂いている。水分量が少ないときは、こまめに少量摂取して頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一日3回、毎食後に口腔ケアのを行い、できる方はご自身でして頂き、できない方は介助をさせて頂いている。義歯の方は定期的にポリドントを使用している。必要時は歯科受診や訪問診療をして頂き、口腔衛生に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を活用し、利用者様の排泄パターンを把握している。必要な方には定期的に声掛けを行い、トイレでの排泄を行えるように努めている。布パンツやリハビリパンツ等、その方に適した物を使用している。 | トイレでの排泄を基本にしている。尿漏れを気にする利用者の状況を観察し、家族に相談、言葉掛けの配慮をしながら布パンツから紙パンツへのスムーズな移行も行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 午前・午後と体操を行っており、天候の良い日などは散歩に行き運動の機会を持って頂くようにしている。また、朝礼時に利用者様の排便状況を報告し、必要な方には排便コントロールを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日を設定しておらず、毎日入浴したい方は毎日入浴して頂いている。午前、午後と入浴する時間を持つなどし、お一人お一人の希望に沿った支援ができるように努めている。 | 毎日入浴する利用者もおり、平均週3回から4回の入浴支援が行われている。機械浴設備があり、身体的に該当しない利用者も泡風呂としての機械浴を楽しみ、全利用者が湯船にゆったり浸かり入浴を楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間を決めておらず、ご本人様の希望に合わせて休んで頂いている。寝具など自宅で使われていた物を使用して頂くなど、雰囲気作りも行っている。眠れない方は無理に休んで頂かず、飲み物を提供するなどし、落ち着ける環境を作っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬変更などがあった場合は、朝礼や申し送り職員に周知している。利用者様の薬の説明書のファイルを事務所に置き、いつでも職員が確認できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ケア会議やアセスメントを活用し、お一人お一人に家事など役割を持って頂いている。希望される方には、居室にお菓子や常備したり、買い物行き、嗜好品を購入して頂くなどの支援も行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や散歩など、希望される方はその都度行って頂けるようにしている。ご家族にも思い出の場所を伺うなどし、外出支援に繋げている。ご家族様協力のもと、日程を決め一時帰宅などの支援も行っている。 | 玄関先にテーブルや椅子が置かれ、日常の日光浴や喫煙スペースとなっている。散歩や買い物・受診など、日常的に屋外に出る機会が多く持たれており、季節感が感じられ、気分転換やストレス解消に繋がっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご自身でお小遣いを管理されている方がおり、必要時には使用して頂けるようにしている。買い物時にお財布を渡し支払いをして頂く等、その方の力に応じた支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状など季節に合わせて、ご家族様に手紙を送っている。また、携帯電話を持たれている方もおり、知人の方やご家族といつでも連絡ができるようにしている。希望時には施設の電話も使用して頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関先やフロアに壁画などを飾り、季節を感じて頂けるように支援している。年間を通じ、フロア内の快適な温度調整を行っている。夜は照明を暗くするなど、落ち着いた環境作りもしている。 | 玄関に掲示された満面の笑みの利用者の写真が来訪者を出迎えてくれている。共用空間は適温に保たれ、利用者と職員と一緒に作成した季節の掲示物が飾られている。テーブル配置は利用者の関係に配慮され、落ち着いた過ごせる場となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用スペースでは、気の合う方を横に座って頂くなどしている。テーブル席以外にソファを置き、共用空間の中でもお一人でゆっくり過ごして頂けるように環境作りにも努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自宅で使用されていた寝具や、家具、カーペットなどを使用して頂き、心地よく過ごして頂けるように努めている。ご家族の位牌を置かれている方もおり、これまでの生活習慣を大切に頂くようにしている。 | 特技の段ボール工作、几帳面に整列した色鉛筆、整理整頓された衣類や寝具など、個々の利用者の個性や特技が生かされた居室づくり、支援が行われている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下やトイレのドアに「トイレ」「便所」と張り紙を貼り、分かりやすくしている。居室にも名前を貼るなど、その方の「わかること」を大切に、自立した生活が送れるような環境作りをしている。また、アセスメントを活用し調理やお経を読むなど「できる」事を活かし、その方の望む生活に近づくように支援している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4490500404 | | |
| 法人名 | 栄寿会 合同会社 | | |
| 事業所名 | グループホームぽかぽか(さくらユニット) | | |
| 所在地 | 佐伯市弥生大字江良1451-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年4月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年6月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年5月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームぽかぽかでは、利用者本位とチームワークを軸に、「自分の事が自分で出来て」「社会と繋がって」「互いに助け合い」その人がその人らしく生きられるように”を理念に掲げ支援しております。利用者様お一人お一人の個性を大切に、その方に応じた役割を持って頂く事、喜びや楽しみを日々の生活の中で感じて頂けるよう、職員一同ケアを行っています。ドライブや散歩等、外出支援にも力を入れており、利用者様に四季を感じて頂けるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームぽかぽか(ゆずユニット)に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の朝礼時、会議の最後に理念を読み施設職員、管理者で共有をしている。また、新任職員研修時や職員の研修時に内容を理解していただいている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ゴミ拾いや神社の清掃、溝掃除に利用者と職員で参加し、地域との交流を深めている。回覧板回しや、地域の方と散歩に出かける事もある。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて認知症の事等を話し、地域の方に認知症の事を少しずつ理解して頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にてサービスの内容や、ヒヤリハット、事故報告書の説明を行い、参加者へのご意見を頂いている。話し合う時間を設け頂戴したご意見等施設内で職員と共有し、議事録にて報告を参加者へ報告している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所担当者と電話連絡を良くし、相談事等は積極的に話し合っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設け、身体拘束指針を職員、ご家族、地域の方、行政に提示し、身体拘束を行わないようにしている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止の研修を設け、管理者、職員に学ぶ機会を作っている。利用者の入浴時等体の状態観察を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の研修を設け、管理者、職員に学ぶ機会を作っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 項目毎に説明させていただき、不明な点がないか確認、理解、ご納得頂いた上で契約を結んでいる。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様やご家族に運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。また随時ご利用者様、ご家族の意見や要望を職員へ朝礼や会議を通じて周知徹底を図っている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に(年2~3回)職員の個人面接を行い、意見や提案を話し合う機会を設けている。また、気づきノートを活用し、著名で意見を出せるようしており、職員会議では気づきノートの内容を取り扱うようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員面談を行い、個人目標の設定をしている。また、研修費用や資格習得費用は事業所で負担し、職員のスキルアップや向上心を持ち職務につけるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新任職員は入社した日より研修を行う。職員研修は、外部の研修に参加したり、管理者や職員が施設内研修にも取り組む。職員一人一人の力量を把握し、チーム全体の力をレベルアップさせる事にも取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修に参加し、同業者と意見の交換をしたり、他施設の見学や訪問等をしたり、交流を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前にご家族様、ご本人様と必ず面会を行う。ご家族様、ご本人様に要望をお聞きして、施設に入所されても生活環境や生活習慣をなるべく大切に、ご自宅や、利用施設を見せて頂き、ご本人に合ったサービスが提供できるようにする。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家庭での過ごし方や、要望、困っている事、不安に思っている事を十分にお聞きし、これからの生活を安心して過ごして頂ける様に、ご家族様ご本人様と話し合い、信頼関係作りをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人様、ご家族様と必ず面会し、ご自宅や、利用施設を見学させて頂き、必要なサービスを見極めている。介護保険の他のサービスの説明や他の施設への見学をおすすめし、体験入所のお勧めも行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様が出来る事は一緒に行い、役割を持って生活して頂く。様々な場面で教えて頂くことが多く、主に家事などを生活の場に取り込み活動している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃よりご家族様に生活の様子をお伝えしている。ご家族様に協力をお願いしたり、ご自宅へ一時帰宅したり、ご自宅で飼われていたペットを連れてきて頂いたり、ご家族との関係性を大切にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行きつけの理髪店に行ったり、ご自宅近所の方の所へ交流をしに出かける。スーパーや商店へ出かけ、馴染み方とお会いして頂く。また、電話やZOOM、LINE、等を利用し外出できなくても、ご家族やご友人と交流を楽しんで頂く。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニットの席やフロアーを移動して頂き、気の合う方等と一緒に過ごせるようにする。レクレーションの中で協力し合うレクレーション等を織り交ぜ、支え合えるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所されてもイベント等の時はご家族にご連絡し、招待したり、転居先の訪問等を行い、仲の良かった利用者様と交流する機会を設けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会議内で利用者様の状態や思いを職員に共有し、ご本人の希望に添ったケアプラン作成をしている。困難な方はご家族にこれまでの生活の状況を聞いたり、ご本人の表情をくみ取り自分らしくくらしにいける様にする。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時には必ずご本人、ご家族と面談、アセスメントを行い、情報は職員全体で把握する。今までの生活をできる限り継続してできる様に努めている。個人ファイルを作り、職員と常に把握できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日朝礼を行い、夜勤者にも申し送りをし、日々利用者様の心身の状態の把握に努めている。施設での生活の中で役割を持って頂き、利用者様お一人お一人に、生きがいを感じて頂ける様に支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者も業務に入り、利用者様と日々を過ごす事でケアプランを作成している。ご本人様、ご家族様にもお話を伺いケアプランに反映している。会議で職員全体でも話し合いを行い、ご本人様が望む生活、その人が自分らしくくらしく過ごせる様に、計画を立てている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | フェイスシートや日々の記録を個別的にし、職員が見る事のできる様にしている。また、ご家族様より記録の観覧を要望された場合も観覧して頂く。月に2回全体会議を行い、日々の様子や、実践、結果気づきや工夫をみんなで話し合う時間を設けている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療の連携はもちろん、お一人お一人の望む生活を送って頂く為、利用者様の望まれるところに、職員も一緒に行ったり等、可能な限り、利用者様に寄り添う様に取り組んでいる。他施設との交流も積極的に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議等で民生委員の方、区長の方に地域のお祭りや、イベントをお聞きし参加したり、地域のスーパー、美容院に日々の生活の中で出向き、地域の方と一緒に利用者様を支援している。ボランティアの方にもきて頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、ご家族様の希望する病院の受診をしています。かかりつけ医には日頃より利用者様の状況報告を行い、信頼関係を気づきながら、関係制を作っており、適切な治療が受けられるように支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 病院との医療連携を図り、定期的な看護師の訪問、利用者様の情報の共有、適切な受診や看護を行えるように整備中である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃より、地域の病院の医師、ソーシャルワーカー、看護師の方と利用者様の事で相談、連携、情報交換ができる様にしている。かかりつけ医との連携もとれている。その為、入退院がスムーズにできている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時の説明の際、重度化や終末期を迎えた時のご本人様、ご家族様の意向を伺い、確認してしている。延命治療を受ける、受けないにしろ、ご家族、かかりつけ医と密に連絡を取り、本人はもちろんご家族の心にも寄り添いながら話し合っていく。話し合った内容は職員にも伝え、医療面はかかりつけ医に相談し、最後までその人が自分らしく生きられる様に支援していく。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応マニュアルを作り、施設内研修をする。外部研修にも参加させて頂いている。かかりつけの病院の電話番号を一覧にしているため、事故や、急変があった場合はすぐに連絡、相談できるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防設備点検業者とスプリンクラー等の点検、通報、避難訓練、消火訓練を業者、職員、利用者様と年に2回行っている。石油ストーブを準備している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 居室は個室となっており、利用者様のプライバシーを守っている。職員は必ず、名前をさん付けで呼び、あだ名では呼ばない。必ず丁寧語を使用する事から研修を行っている。お一人おひとりの人格や人としての尊重をする事を方針としている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | おやつ飲み物は毎日、ドリンクメニューから本人様に選んで頂き提供している。また、入浴や起床の時間も施設では作らず、本人様の意思を尊重し少しでも自己決定ができる様にしている。その人が自分らしく生きて頂こうと支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床、食事、入浴、就寝の時間は決まっておらず、お一人おひとりに合わせ、またこちらからもお尋ねし、生活して頂いている。買い物や散歩等の希望があった場合は、日程表に組むなどし外に出る機会を持って頂ける様支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせ、衣替えは職員と一緒に、ご本人様の希望に合わせて、衣類を買いに出かけたり、ご自宅に衣類を取りに外出することもある。また、馴染みの美容院や床屋にカットやパーマをかけに出かけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の好みは普段の会話の中からお聞きしたり、ご家族様に伺っている。調理は基本利用者様と行き、野菜切りや味付けも職員と一緒に、利用者様好みの味を提供している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の記録に食事量や水分量を記入し、職員が把握できるようにしている。食事量が少ない方には、栄養補助食品やその方が好きな物を食べて頂いている。水分量が少ないときは、こまめに少量摂取して頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一日3回、毎食後に口腔ケアを行い、できる方はご自身でして頂き、できない方は介助をさせて頂いている。義歯の方は定期的にポリドントを使用している。必要時は歯科受診や訪問診療をして頂き、口腔衛生に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を活用し、利用者様の排泄パターンを把握している。必要な方には定期的に声掛けを行い、トイレでの排泄を行えるように努めている。布パンツやリハビリパンツ等、その方に適した物を使用している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 午前・午後と体操を行っており、天候の良い日などは散歩に行き運動の機会を持って頂くようにしている。また、朝礼時に利用者様の排便状況を報告し、必要な方には排便コントロールを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日を設定しておらず、毎日入浴したい方は毎日入浴して頂いている。午前、午後と入浴する時間を持つなどし、お一人お一人の希望に沿った支援ができるように努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間を決めておらず、ご本人様の希望に合わせて休んで頂いている。寝具など自宅で使われていた物を使用して頂くなど、雰囲気作りも行っている。眠れない方は無理に休んで頂かず、飲み物を提供するなどし、落ち着ける環境を作っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬変更などがあった場合は、朝礼や申し送り職員に周知している。利用者様の薬の説明書のファイルを事務所に置き、いつでも職員が確認できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ケア会議やアセスメントを活用し、お一人お一人に家事など役割を持って頂いている。希望される方には、居室にお菓子を常備したり、買い物行き、嗜好品を購入して頂くなどの支援も行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や散歩など、希望される方はその都度行って頂けるようにしている。ご家族にも思い出の場所を伺うなどし、外出支援に繋げている。ご家族様協力のもと、日程を決め一時帰宅などの支援も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご自身でお小遣いを管理されている方がおり、必要時には使用して頂けるようにしている。買い物時にお財布を渡し支払いをして頂く等、その方の力に応じた支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状など季節に合わせて、ご家族様に手紙を送っている。また、携帯電話を持たれている方もおり、知人の方やご家族といつでも連絡ができるようにしている。希望時には施設の電話も使用して頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関先やフロアに壁画などを飾り、季節を感じて頂けるように支援している。年間を通じ、フロア内の快適な温度調整を行っている。夜は照明を暗くするなど、落ち着いて過ごして頂ける環境作りもしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用スペースでは、気の合う方を横に座って頂くなどしている。テーブル席以外にソファを置き、共用空間の中でもお一人でゆっくり過ごして頂けるように環境作りにも努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自宅で使用されていた寝具や、家具、カーペットなどを使用して頂き、心地よく過ごして頂けるように努めている。ご家族の位牌を置かれている方もおり、これまでの生活習慣を大切に頂くようにしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下やトイレのドアに「トイレ」「便所」と張り紙を貼り、分かりやすくしている。居室にも名前を貼るなど、その方の「わかること」を大切に、自立した生活が送れるような環境作りをしている。また、アセスメントを活用し調理やお経を読むなど「できる」事を活かし、その方の望む生活に近づくように支援している。 | | |